

平成30年度(第8期) 事業計画書

(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

公益財団法人松下社会科学振興財団は、平成22年9月22日に京都府より「公益財団法人」移行認定第1号団体として認定され今年度は第8期を迎えます。

平成6年に松下幸之助生誕100年を記念して開設された「松下資料館」の管理と運営を活動の主体と致しております。

松下資料館の来館者数は順調に増えており、平成29年度は8,100名、前年度比112%となり松下資料館開設以来最大の来館者となる見通しです。開設から平成29年度末までの来館者数累計は106,200名となる見通しです。

中国の経営者・学生の団体や企業の幹部研修の一環で来館されるケースが増えてきております。特筆すべきは中国を中心とする海外からの来館者が全体の約2割を占めるに至った事です。

今年度はさらに充実した展示施設として、来館者の皆様により大きな感動を与えるよう努めてまいります。

本年度は、「公益財団法人」として8期目に入りますが、展示映像機器の老朽化に伴う機器の入替えとそれに関するシステムの変更を実施いたします。

また、恒例となりました松下資料館主催の講演会も引き続き実施してまいります。

一方、本年度の金融情勢につきましては、イギリスのEU離脱による金融不安、米国の政治不安など世界的に不安定な状況が続く為替変動も大きいことが予測されます。こうした厳しい経営環境ではありますが当公益財団は引き続き堅実かつ安全な資金運用に努め、財務内容の健全化と一層の経営基盤強化に努めてまいります。

< I 経営研究事業 >

1、講演会の実施

「日本的経営を考える」研究事業の一環として毎年開催している講演会を実施してまいります。

- 実施日 平成30年2月16日（金）
- 実施会場 松下資料館 講話室
- テーマ：「松下幸之助と素直な心」

講演者 岩井 虔（株式会社PHP研究所 客員 元専務取締役）

松下幸之助との研究活動を通して薫陶を受けてきた岩井氏に、松下幸之助の素直観をエピソードを交えながら語っていただく。

< II 展示事業 >

1、展示室の機器入替えとシステムの変更

- 展示室のリニューアル工事を実施

<工事期間> 平成30年1月5日～1月21日

<実施内容>

- ① 設置後10年を経過し老朽化してきた映像機器の入替
- ② 映像配信システムをアナログからデジタルに変更
- ③ 視聴の仕組みの一部変更とコンテンツの追加

- 展示室リニューアルに伴うその他実施事項

・ホームページの修正・見学ガイドの修正（4ヵ国語対応）

2、関連先との連携強化

前年に引き続き松下資料館と関係の深い企業・団体との連携をさらに強め松下幸之助哲学の普及とファンづくりに努めてまいります。

[対象] パナソニックグループ、PHP研究所、松下政経塾、松下幸之助記念財団

[目的] ①社員への理念浸透 ②得意先との関係強化 ③社会貢献の一環 ④海外留学生との交流活動

3、講話に関する有料化に向けての検討・準備

- 現在、入館料は無料。5名以上のグループで希望があれば1時間程度で講師による講話も無料で実施している。

最近、講話の回数が増加してきたことにより、講師及びスタッフの負担増、部屋の確保も困難な状況が発生。

<講話回数の現状（2016/4～2017/3）>

	講話回数	受講者数
30人以下のグループ	235回	3,038人
30人以上のグループ	37回	1,774人
計	272回	4,812人

(対象期間内来館者数 7,500人の64%)

- ・平成31年度に講話有料化について検討（入館料は従来通り無料）
- ・有料化により、講師・スタッフの負担軽減化
- 講話時間・内容の標準化・システム化を検討することにより、顧客が選択しやすい仕組みにすると共に、講師による講話内容の標準化を図る。

<Ⅲ 経営図書館事業>

1、経営者執筆本・会社社史の充実化

経営者執筆本・会社社史の蔵書といった全国的にも特徴のある図書館として、さらに収集に努め充実化を図ってまいります。

- ・ホームページでの継続的な寄贈の呼びかけ
- ・社史編纂請負会社への寄贈依頼
- ・来館された企業幹部への声かけ

平成29年8月現在 蔵書数

全 蔵 書 数	20,448冊
内経営者執筆本	2,446冊
会 社 社 史 2,153社	3,397冊